

第5回
石川町地域公共交通活性化協議会

日時：平成26年3月25日（火）15：00～16：30

会場：石川町共同福祉施設 2階 会議室

【議事次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議 事
 - (1) パブリックコメントで寄せられた意見と考え方について
 - (2) 石川町地域公共交通総合連携計画（素案）について
 - (3) 買い物支援策について
4. その他
5. 閉会

資料1：石川町地域公共交通総合連携計画（素案）についての意見と町の考え方について

資料2：石川町地域公共交通総合連携計画（素案）について

資料3：買い物支援策について

【出席者】

所属	役職	氏名	備考
石川町	町長	加納 武夫	
福島交通株式会社	石川営業所長	佐藤 秀男	
有限会社野本観光バス	代表取締役	野本 和義	
マルイチ新石川タクシー 有限会社	マルイチすかがわ タクシーセンター長	小松 正朝	
有限会社三光タクシー	代表取締役	野崎 勇雄	
東日本旅客鉄道株式会社 水戸支社	水郡線営業所長	箕輪 敏夫	代理 総括助役 丹治春男
社団法人 福島県バス協会	専務理事	千代谷 俊行	
一般社団法人 福島県タクシー協会	県南支部長	金澤 寛二	
福島県県中建設事務所	主幹兼企画管理部長	磯松 教彦	代理 管理課管理調整担当 主任出 前田盛夫
国土交通省 東北運輸局福島運輸支局	主席運輸企画専門官	兼平 悟	代理 主席運輸企画専門官 遠嶋孝則
ふくしま自治研修センター	総括支援アドバイザー兼 教授	吉岡 正彦	
全国自動車交通労働組合 連合会福島地方本部	書記長	大槻 政好	
福島県県中地方振興局	県民環境部副部長兼県民 生活課長	渡邊 昌明	
石川警察署	地域交通課長	平子 誠	
石川町区長会	会長	鈴木 健一	
石川町社会福祉協議会	副会長	永沼 栄一	
石川町長寿会連合会	山橋地区長寿会連合会事 務局長	高原 栄紹	
石川町婦人会連絡協議会	会長	小林 ヒサ	
石川町 PTA 連絡協議会	会長	佐川 正美	
福島県立石川高等学校	校長	安瀬 一夫	
福島県立石川養護学校	校長	大関 彰久	
学校法人石川高等学校	校長	森 涼	
石川町役場総務課	課長	小松 弘喜	
石川町役場総務課政策推進係	課長補佐 兼 政策推進係長	首藤 剛太郎	
石川町役場総務課政策推進係	主査	迎 茂城	

【議事録】

1. 開会

2. あいさつ

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	みなさん、こんにちは。今日が第5回ということになります。年度末のお忙しい中、ご参集いただきまして大変ありがとうございました。早いもので、今日報告書の案ということで、完成形がでてまいりました。これまで皆様方にいろいろ熱心に、ご意見なりご質問いただいて、成果品としてもいい計画がまとまったと思います。あとはこの計画を踏まえて、ある意味でこれがスタートというようなこともありますので、今後町民の皆様がいかに公共交通をうまく利用していただいて、より豊かな生活を作って頂くという事になるかと思えます。そんな今日は締めめの段階になるかと思うので、引き続きご協議の方どうぞ宜しくお願い申し上げます。
加納会長 (石川町長)	みなさん、こんにちは。先ほど吉岡先生からお話がございました通りであり、これだけ皆さん方がご協力いただいたという事は、非常に私としてはありがたいなと思っております。そしてまたこれからの将来、石川町の少子化の問題等も踏まえながら、尚且つそういう中であっても石川町の利便性というものを考えて、ご議論いただきましたことは、私としても本当によかったと思っております。これを今日ひとつ皆様がたにご審議いただいて、結果がまとまれば後は実行のみでありまして、ご協力をお願い申し上げます 今日私は最後まで皆さんのご意見を聞いてから帰るので、議事進行の方は吉岡先生に宜しくお願いを申し上げます。宜しくお願い致します。今日は皆さんご苦労さまでございます。

3. 議事

(1) パブリックコメントで寄せられた意見と考え方について

(事務局より資料説明)

吉岡副会長	ただいま、(1)のパブリックコメントで寄せられた意見と考え方について事務局から説明がありました。1ヶ月弱ですか、意見の募集をしました結果、2件の意見がでてきたという事で、これまでもこの委員会の中での議論になりましたが、大多数の方は車を利用されているので、それほど不便を感じていないけれども、本当に車の利用できない方、高齢者の方、いわゆる交通弱者と言われていたような方が、2件お寄せくださったということなんだと思います。これについて何か皆さんご意見なりございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。
	意見無し
吉岡副会長	それでは(1)については以上で宜しいですね。

(2) 石川町地域公共交通総合連携計画(素案)について

(事務局より資料説明)

吉岡副会長	ただいまのは(2)の連携計画(案)について説明をいただきました。現状や課題はこれまで議論してきましたので、計画編のところ、大きな方向性について説明をいただきました。ただいま説明をいただいた内容について質問なりご意見がありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
吉岡副会長	先ほど冒頭に申し上げましたが、こういう計画はできたのだけど、その計画を具体的にどう実行していくのかというところが一番大事なわけで、この4月までわずかですけども、26年度の4月～9月、或いは10月～3月というようなことで、半年単位で大きな

	スケジュールを組んでいくという事です。やれることは早く着手していきましょうということですね。 基本的にはこの会議は来年度もまた継続していくということになるのでしょうか。
事務局	はい。そう考えています。
吉岡副会長	皆さんには引き続きご出席、ご参加いただいてということになりますか。
事務局	はい。お願いできればと思っております。
吉岡副会長	という事ですので、今日は本年度の締めということですが、これからは具体的な運用というようなところで、4月以降も皆さんに適宜集まって頂いてご意見なりいただければということのようでございます。
吉岡副会長	特にご意見がなければ、この計画を承認したいと思います。

(3) 買い物支援策について

(事務局より資料説明)

吉岡副会長	(3) 買い物支援策ということで、具体的な提案がありました。皆さん日常生活の事に困っているという事で、いろいろご意見ご要望も出てくるかと思えます。 住民の皆さんの立場として、鈴木委員、いかがですか。
鈴木委員 (石川町区 町会)	実は、まちなか再生計画の議論の中でも、病院の車を有効に利用できないかなという話がでていました。これも個人個人が勝手な事言っちゃうと、病院の都合が合わないということで、病院側と摺合せしてやらないとこれはできないと思います。ただそれをうまく利用できれば、例えば行くときは自分でタクシー使って行って、帰りはその車に乗ってもらおうとか、そんなことは出来るのかなといった感じですね。だから両方使えるのではないかと感じました。
吉岡副会長	病院バスがもうちょっとうまく使えないかという事ですかね。
鈴木委員	確かにその通りできることは出来るんですよ。だからあとはコースの問題とか時間の問題があるだろうから、その辺で買い物客をどういうふうにマッチさせるかですね。それは病院側に相当協力してもらわないとできないだろうし、それを全部じゃなくても朝だけ乗っけてきてもらって、帰りはタクシーで帰るよとか、そういうことであればまた違うでしょうね。
吉岡副会長	なるほど。永沼委員いかがですか。
永沼委員 (社会福祉 協議会)	高齢者だから無償でいいというわけではないと感じております。タクシー会社、バス会社とも調整して、自己負担も重要だという視点で検討を進めていただきたいと思います。
事務局	本日ご提案した案は、基本的に優勝を考えております。
吉岡副会長	例えば、計画にも掲載されている熊本健軍商店街では、利用者が支払うのは300円となっていますが、そのうち商店街が100円を負担するという仕組みです。このようなことも考えていくべきだと思います。
高原委員 (長寿会連 合会)	PRをして地域民に知らせる方法はないかというのが一番だと思います。パブリックコメントを行っているのに、地域の人が割合知っていないというのは問題だと思います。自治センターに計画の冊子が置かれていましたが、大部分の人はそれすら知らないという状況にあります。
吉岡副会長	情報が町民の皆さんの末端にまで伝わっていないということなんですね。
高原委員	私が感じたのはこの2月のパブリックコメントで、その部分が懸念されました。
吉岡副会長	このパブコメの周知はホームページではやったと思いますが、町の広報なんかも？皆さんに一応配布はしているわけですね。
事務局	広報に掲載し、各戸配布しました。 アンケート結果とかこういった協議会の取り組みも広報でお知らせさせて頂いております。
高原委員	計画書案がどこにあるのかが分からなかったですよ。
吉岡副会長	これからこの計画みると、いろんなところで説明会をやっていくようなので、そうい

	ったキャッチボールが大事だと思いますよね。
高原委員	私もその長寿会の役員になっているのですが、その役員会の中でこれは話すというのは時間がないのですよね。その時間を作ってもらって役員だけでも周知できる場がほしいなどは思っているんですが。
吉岡副会長	その辺うまく時間を作っていただいでですね。小林さんいかがですか。
小林委員 (婦人会連絡協議会)	皆さんに早くこのシステムを分かっていたいただければね。
吉岡副会長	やっぱり皆さんまだご存じないところがありますよね。 この計画の町民も皆さんへの広報はどんなかたちで今後やる予定ですか。
事務局	広報紙やホームページという手段もあるんですが、それだけでは今ご意見いただいた様に難しい部分もありますので、各自治センターとういのは6つ町内にはございますので、そういった組織の方に入っていく、このための説明会となるかどうかはわかりませんが、何かと抱き合わせたりして、積極的にこちらが入っていかないと難しいのかなと感じております。
吉岡副会長	今後とも色々そういう機会があるようですので、うまく町民の皆さんと行政がキャッチボールが出来るようにやっていただけたらと思います。 理想的には自治センターがもう少し自分たちの自治に向けて、活動をしていただけると本当は有り難いのだろうと思うのですよね。いろんな海外の先進事例とかあるんですけど、日本の場合はどうしても役所に頼っているというところがあって、住民の皆さんが自分たちでどこまでやるかというところでなかなかうまく機能しないところがあるので、石川町だけでも、自由民権運動の歴史もあるので、住民の皆さんが力をもう少し発揮していただいて役所とキャッチボールをするような自治センターなんかも機能するといいいのかなと思います。 これからこの公共交通に限らず、町の全般に対して、人数が少なくなってお金がなくなってという事なので、今迄と同じ通りにはいかないで、その辺新しい、特に若い人たちに頑張って貰えるといいいのですけれども、高齢者の方々からそういう環境を作っていただけると、いいのではないかなと思います。 これをひとつのきっかけとしてより町の情報も町民の皆様にお知らせをしていくなかたちが取れるといいいかと思ひます。 佐川委員いかがでしょうか。
佐川委員 (PTA 連絡協議会)	まちなか再生と絡めるのであれば、石川町の商店街に買い物に行くのが前提だと思うのですが、まちなかに魅力がないと利用されないのではないのでしょうか。 最近、町外のほうが魅力的な店が立地していたりするので、商店街も魅力的になるよう工夫が必要かと思ひます。
吉岡副会長	他に何かご意見はありますか。 今日たまたまお休みなんですけれども、商工会がうまくやっている事例もありますので、それを石川町でも検討してみてもいいかもしれませんね。 例えば、御用聞きみたいなかたちで注文を取って商工会が品物を配送したりだとかやっている例もあるので、そういった色々な皆さんの力を合わせて実現するといいいのだろうと思ひます。
野本委員 (野本観光バス)	この案は、大型店で買い物が前提となっているように感じますが、個人店のことも考えるべきではないでしょうか。まちなか再生も重要なので、まち全体として考える必要があります。 例えば、もっと店舗を集約して1か所に店舗を集めて買い回れるようなシステムを、町全体として考えていかなきゃならないと感じます。 この施策だけを単独で実施するのではなくて、今検討している他の施策とも一緒になってやっていかないと話がまとまらないと思ひます。 タクシーが荷物を配達するというのも道路運送法で制限されているはずなので、慎重に考えながらやっていかないといいけないのではないのでしょうか。
佐藤委員	このおっしゃる買い物というのは、私が認識しているのは食料品、日用品を含む最寄

(福島交通)	品ですが、その理解でよろしいですね。
吉岡副会長	<p>そうですね。</p> <p>基本的に町内の買い物となると、日用品ですよ。大型の電気製品とかはああいうのはほとんど皆業者が配送してくれると思うので。確かまちなか整備計画は別途やっているなんて話がありましたよね。</p> <p>中心市街地活性化計画のようなものはありますか。</p>
事務局	<p>まちなか再生計画は本年2月に再生委員会、民間の委員さんの方からご提言頂きまして、非常に内容の深いものがあります。今、町の方でそちら側を検討して、予定では本年6月の中で、財政計画を伴っての中長期、そこの中でのプランを決定をしていく予定です。</p> <p>そして、当然その中でも、こちら側の公共交通のあり方を含めた買い物支援も含めての話にはなっただろうかなというふうには思いますけれども。協議会だけではなくて、またそちら側の議論も含めていろんな意見の集約をしていきたいと思っています。</p>
吉岡副会長	<p>ありがとうございます。今お話いただきましたけれども、やっぱりいろんな計画がばらばらに動いていると非効率になる場合があるので、併せて一体的に検討していく必要はあろうかと思っています。その他いかがでしょうか。</p>
小松委員 (マルイチ新石川タクシー)	<p>先ほどの貨物の課題もありますし、もう一つ、2人、3人と利用する場合は、乗合になってしまいます。</p>
遠嶋委員 (東北運輸局福島運輸支局)	<p>おっしゃるような問題は確かに感じました。なので、タクシー事業とは別に貨物の運輸というのにも必要になるのかなと思っています。</p> <p>ただ、そういう運送法上の問題はさておいて、今の発想として色々な方策は考えるべきだと思いますので、いずれその問題は表面化することだと思いますから。気持ちをどんどん前に向けていただきたいなと思います。</p>
小松委員	<p>弊社は、現在一般乗用の免許しか持っておらず、一般乗合は行えない状況にあります。</p>
吉岡副会長	<p>実際にやっていくにあたってはいろいろな許認可の網などに引っかかっていくので、それはクリアしていかなければいけないということにはなるかと思っています。いろんなやっている事例があるので、先行している事例を参照しながら、いろんな許可の取り方なんかを学んでいったらいいのだと思います。</p>
遠嶋委員	<p>貨物業者に委託してしまえば簡単なのですが。今、話の中でバス事業者、タクシー事業者という旅客事業者がいらっしゃるの、その方々の活用ということをお考えなんだと私は思っていました。</p>
吉岡副会長	<p>できればまちなかにお金を落としたいというのはありますので、なるべく町の中の業者さんにご協力いただきながら、ということを考えてもいいのだらうと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
大槻委員 (全国自動車交通労働組合連合会福島地方本部)	<p>マルイチさんの方からもお話があった、法的な部分では貨物だけだと問題があるのは事実です。ただバスの時間帯によって10時からお昼ごろまで空白の時間がございませよ。その時をいかにしてタクシーでカバーできるか、或いはお客様からご注文いただいて、どちらの方向に行きますよと聞いた時、別のお客様の買い物した荷物を一緒に運べるのかどうかというのも発想としてあるのかなと。</p> <p>当然事業所の皆さんと乗員の皆さんのご理解をいただかなければ進まないんですけども、やっぱりどこの市町村も抱えている問題というのは高齢化とともに、交通弱者の問題というのは切っても切り離せない問題になっているわけですから、そこを含めてどういうふうにしたらより良い交通体系ができるのか、確かにその間だけ頼まれるお客様さんで、バスで行くからいいなんて特異なお客様もいらっしゃるのも事実ですけども、ただそういうことだけでなくやはり同じ方向で時間限定されなければ、その日のうちに夕方までだったら届くというような、バスと共存できる、或いは町が発行するバス・タクシー共通補助券であれば、事業者の皆さんと協議の上で出来るのかどうかを検討いただければと思います。</p>
吉岡副会長	<p>本当にいままでやった事例はありますし、またいろんなアイデアですね、石川町なら</p>

	ではの新しい方式を考えてもいい。色々ご意見いただけると本当にありがたいと思います。
野本委員	調査は飲食店も含めてやっているのでしょうか。
事務局	調査対象は、町内の主要スーパーだけです。これから具体的にになれば小さな町中の小売店も含めていろいろ調査は広くさせていただきたいと思います。
吉岡副会長	その辺は商工会さんも入っていただけるといいんじゃないかと思しますので、これからそんなご意見も聞けるかと思います。
佐藤委員	買い物支援だけでなく、いろいろな目的を総合的に考えていく必要があると思います。ある人が買い物をする、ある人は病院に行く、ある人はお茶飲みに行く、ということを総合的に考えていかないといけないと思います。
吉岡副会長	ありがとうございます。本当に貴重なご意見だと思いますね。 こういう個別のサービスで向上していくということもあるんですが、併せて町全体の輸送体系を考えていくのかということですね。デマンド入ると基本的にはドア to ドアなので、自宅と商店と直接結べてしまうので、その場合にはこういうタクシーを動かさなくてもデマンドというかたちで利用ができちゃうのかもわからないですね。ですので、そういったことを合わせて考える必要はあろうかと思えますね。 では「買い物支援策について」議論を終えたいと思います。沢山のご意見ありがとうございました。

4. その他

5. 閉会